

令和元年度第2回堺市社会教育委員会議

開催日時 令和元年8月21日(金)午前9時34分～午前11時04分

開催場所 高層館20階 第2特別会議室

出席委員 餅木議長、林副議長、浅野委員、小山委員、黒田委員、船橋委員、山口委員
(欠席 植木委員、佐伯委員)

事務局職員 田所教育次長、泉森地域教育支援部長、八木地域教育振興課長、
梶原地域教育振興課長補佐、寺園地域教育振興課管理係長、
岸本地域教育振興課支援係長、木村地域教育振興課職員

案 件 (1) 議長・副議長の選出について
(2) 実践報告集について
(3) 今期の会議取組内容について

(午前9時34分 開会)

○事務局(梶原課長補佐) それでは、ただいまから令和元年度第2回堺市社会教育委員会議を開催いたします。

なお、本日の会議は委員9名中半数以上の6名のご出席をいただいておりますので、堺市社会教育委員会議規則第3条第2項の規定により、会議の開催が成立していることをご報告申し上げます。

まず初めに、開会に当たりまして、泉森部長からご挨拶いただきます。

○事務局(泉森部長) みなさん、おはようございます。

本日はお忙しいなか、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、委員のみなさんにおかれましては平素から社会教育の振興に多大なご理解とご協力をいただいております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、みなさんもお存知のとおり、先月の7月6日でございますが、アゼルバイジャンで第43回世界遺産委員会が開催されました。本市に関連しては、百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産への登録が決定したところでございます。登録が決定された当日及びその前日には、フェニーチェ堺でパブリックビューイングが開催されまして、多くの関係者や市民のみなさまと共に喜びを分かちあったところでございます。

また、お手元に新聞記事をお配りさせていただいておりますが、8月3日、4日に山形県天童市において、全国中学生選抜将棋選手権が開催されました。本市からは予選を勝ち抜い

た津久野中学校3年生、津久野中学校というと船橋委員が校長をされている学校ですが、そこから、亀田夢乃さんが参加されまして、見事優勝し、堺市長から市民栄冠賞が授与されたところでございます。

さらに、先週には台風10号が西日本に上陸し、堺市でも108の避難所が開設され、48の方が避難されたところでございます。最近テレビや報道で水の事故、熱中症、さらにはあおり運転といった報道が数多くされております。また、来週からは2学期が始まるといった状況にもあります。これから、社会教育委員会議がスタートになりますが、社会、学校や地域、家庭のことも含めまして様々な分野から専門的なご意見をいただきたいと思っております。

本日は委員改選後初めての会議ということでございますので、まずは議長、副議長の選出、次に実践報告集について、最後に今期の社会教育委員会議の取組についてと、これら3つの案件をそれぞれの立場からご意見いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

甚だ簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） それでは、ここで山口委員がご到着されましたので、改めて本日の会議が委員9名中半数以上の7名ということで、会議の開催が成立していることをご報告申し上げます。

○山口委員 よろしく申し上げます。

○事務局（梶原課長補佐） ここで本日ご出席の社会教育委員のみなさまをご紹介させていただきます。

今回、令和3年6月30日までの任期ということで、本年7月から新たに委嘱させていただいております。先に、司会から五十音順でお名前をご紹介させていただきます。お名前をご紹介させていただいたあと、各委員から自己紹介の要領で、ご自身の団体における役職、専門分野などご披露いただけましたら幸いに存じます。

堺市自治連合協議会からご推薦いただきました、浅野勲委員でございます。

○浅野委員 浅野勲でございます。校区は浜寺石津校区というところで、まちづくりを中心に住み良いまちをと考えて活動しております。今期もよろしくお願い申し上げます。

○事務局（梶原課長補佐） 続きまして、大阪府立大学准教授の黒田桂菜委員でございます。

○黒田委員 黒田桂菜です。よろしくお願い申し上げます。田間委員の後任で参りました。専門分野は海洋環境ということで、大阪湾の海洋環境をメインでさせていただいております。堺の海との「つながり」と提言書にもありましたので、その観点で社会教育委員として活動で

きたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 続きまして、堺市人権教育推進協議会からご推薦いただきました、小山敏美委員でございます。

○小山委員 初めまして。私、南区の更生保護女性会の区長をしております。更生保護女性会の活動はもちろんのこと、地域のつながり、人々のつながり、明るいまちづくりなど、いろいろ活動しております。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 続きまして、龍谷大学教授の林美輝委員でございます。

○林委員 龍谷大学の教員の林と申します。専門分野は社会教育や生涯学習という分野ですけども、社会教育といっても私の考えている社会教育というのは、専門という形でこだわるといよりは、より多くの学校外での日常での学びというのを見つめ直していこうというような立場で、研究を行っている社会教育というのは、専門性が閉じていくような形とはまたスタイルが違い、そういう意味では提言書と考えが近いかなとは日々考えております。どうかよろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 堺市中学校校長会からご推薦いただきました、船橋俊彦委員でございます。

○船橋委員 船橋です。よろしくお願いいたします。3月で定年退職して再任用校長は1年契約でございますが、令和3年6月まで任期を全うできるように、学校教育と社会教育をつなげるために少しでも役に立てたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 続きまして、大阪教育大学教授の餅木哲郎委員でございます。

○餅木委員 大阪教育大学の餅木でございます。連合教職大学院ということで、学校の現職の先生が勉強しているところで教鞭をとっています。もともと堺で教員を36年間続けて、退職してお世話になっておりますので、わからないことだらけですけども勉強させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 続きまして、堺市女性団体協議会からご推薦いただきました、山口典子委員でございます。

○山口委員 おはようございます。山口典子と申します。堺市女性団体協議会の委員長を務めさせていただいております。社会教育につきましては、長い間社会教育委員をさせていただいて、辞めさせてもらおうかなと思った時に、大きな改革をしていただきまして非常に意味のある会議になっています。私は社会教育というのは地域教育や学校教育も含めて、全てを包括するものと考えております。

ただし、私の専門はやはりジェンダー、人権、それから政治ですので、堺市政のことについてももちろんですが、今国際的に新しい、SDGs未来都市というものに堺市が日本で選

定されました、やはりSDGsという持続可能な開発目標というの、人権と平和というのが根底にあります。だから、そういう意味で社会教育というのが、今までの日本の、特に学校教育や家庭教育で欠落してきた人権教育、ジェンダー平等教育というものを、特に、やはりジェンダーのなかでも性暴力をなくしていくという堺セーフティシティも含めまして、その性暴力をなくすための市民運動でありますとか、性暴力をなくすため、堺市が日本で初めて取り組んでいるセーフシティプログラムというものについて、博士論文を書いている途中でございます。その政策実現の研究という形で書かせていただいておりますが、また委員のみなさま、いろいろご支援ください。

よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 以上で本日ご出席の各委員の自己紹介を終了いたします。なお、堺市PTA協議会からご推薦いただきました、植木聡委員、ならびに、大阪総合保育大学准教授の佐伯知子委員におかれましては、ご都合により本日ご欠席の連絡をいただいております。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

地域教育支援部長の泉森でございます。

○事務局（泉森部長） 泉森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 地域教育振興課長の八木でございます。

○事務局（八木課長） 八木でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 同じく課長補佐の私、梶原でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 管理係長の寺園でございます。

○事務局（寺園係長） 寺園でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 支援係長の岸本でございます。

○事務局（岸本係長） 岸本です。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） 担当の木村でございます。

○事務局（木村職員） 木村でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） それでは、あらためまして事務局より、教育次長の田所でございます。

○事務局（田所教育次長） 教育次長の田所と申します。今回もよろしくお願いいたします。

○事務局（梶原課長補佐） また、担当の深澤は現在、社会教育主事講習を受講しておりますため、本日は欠席でございます。事務局といたしましては、以上の社会教育委員のみなさまから、ご意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、最初の案件となります「議長・副議長の選出について」に進みたいと思います。本

件につきましては、堺市社会教育委員会議規則第2条第1項で、委員の互選により定めると規定されておりますので、よろしく申し上げます。なお、本件の進行については、本来なら議長が進行しますが、議長がまだ選任されておられませんので、事務局であります地域教育振興課、課長の八木が暫定的に務めさせていただきたいと思っております。みなさまいかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○事務局(八木課長) 地域教育振興課の八木でございます。議長・副議長の選出につきまして議長選出までのあいだ、進行役をさせていただきます。よろしく願いいたします。

案件(1)「議長・副議長の選出について」でございます。お手元に配付いたしております資料「堺市社会教育委員会議規則」より説明させていただきます。規則第2条をごらんください。「委員の会議に議長及び副議長を置き、委員の互選により定める。」とございます。のちほど、委員のみなさまには議長の互選をお願いいたします。

同上第2項、議長職でございます。「議長は、会議を主宰する。」とあり、この会議の進行役となります。また、同条項第3項におきまして「議長に事故あるとき、又は議長が欠けたときは、副議長がその職務を代理する」と定められております。

それでは、議長職につきまして、委員のみなさまからの互選を行いたいと思っております。立候補あるいはご推薦はございませんでしょうか。

○浅野委員 せっかく、つながりというところを、我々のできるような進め方をさせていただきましたし、その中身を継承する意味からも含めまして、餅木委員を推薦したいと思っております。

なお、副議長についても同様、林委員にお願いするという事で、前期と同じ体制のままです。せっかくの営みですから、継続していきたいということで推薦の提案をさせていただきます。

○事務局(八木課長) 浅野委員からご推薦いただきました。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○事務局(八木課長) それでは、ご異議はないようですので、任期の間、餅木委員に堺市社会教育委員会議の議長をお願いしたいと思います。

それでは、餅木議長は議長席の方への移動をお願いいたします。

○餅木議長 改めて、おはようございます。今期もよろしく願いいたします。今、お話あり

ましたけれども、副議長を林委員にというご推薦がありました。林委員にお願いするということでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○餅木議長 では、林副議長どうぞ、またよろしくお願いいたします。

実は、私の所属する大学院は推薦入学を行っていますが、本学の推薦入学の場合は、ある本を読んでそれを要約するというテストを小論文に代えるということをしていまして、今年の本は安藤寿康さんの「なぜヒトは学ぶのか」という本です。この方は、生物学をされている方なのですが、凄い本で、山口委員がおっしゃったように教育というのは学校教育とか家庭教育とか、そういうところよりもやっぱり社会教育が、大事だっという話があったのですが、この本にもそういうことが書いてありました。「学校教育はたかだか200年だ。でも、人間という生き物はこの歴史のなかで誕生してからずっと、おそらく教育ということをして、生きる営みとしてやってきたんだろう」ということを、書かれていたということがあって、改めてそういう視点で我々がまた社会教育のあり方というのを考えないといけない時期にきていると思います。「学校教育が行き詰まっている」というと変ですけども、いろんな問題も絡んでいて、これからは学校教育を考えるうえでも社会教育は大事なものだろうなというのを改めて考えているところです。

では、今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

では、最初に案件(2)実践報告集についてです。この「つながり」が拓く堺の未来、実践報告集というのができあがりしました。世界遺産となった百舌鳥・古市古墳群についても、文言表現を修正していただいています。特に、ご意見がなければこの後、教育委員会で報告され日程を調整し、私と林副議長とで教育長へご報告をさせていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。みなさんに見ていただいて、間違っているところとか、あるいは気になるところとかありましたら、ご指摘いただければと思います。

これは、完成時はカラーじゃなくて白黒になりますよね。

○事務局(八木課長) 配布は白黒がメインになりますけど、ホームページにはカラーで掲載する予定です。

○餅木議長 事前にいただいた分が白黒だったので、もう少し縦のインデックスというか目次というかこれがもう少し見やすかったんですけど。カラーでは青が映らなくて見づらいです。それは大丈夫ですか。

○事務局(八木課長) その辺は、調整させていただきます。

○餅木議長 白黒のものでは、とても見やすかったので。内容はいろいろ工夫していただいて、とても見やすい、今何を読んでいるというのがよくわかる工夫がされたりしていると思います。

何かお気づきのことがあったら、ご指摘いただければと思います。

44、45ページで大仙公園のおもてなしトイレを紹介していて、そのあと、46、47ページで堺市博物館の紹介が記載されていまして、ページ末尾に記事を書いた委員の名前が記載されていますが、田間委員に博物館を書いていただいて、私がおもてなしトイレの記事を書きましたので、これは逆になってます。

○事務局（八木課長） 田間委員が博物館で、おもてなしトイレが餅木議長で訂正いたします。

○餅木議長 いかがでしょうか。

○山口委員 今、おっしゃっていただいた44ページ、45ページのおもてなしトイレですが、本政策提言者として、凄くよく書いていただいていると思いますが、このトイレは当時、恐らく日本初だと思いますけど、性暴力を許さないトイレなんです。だから、盗撮とかのぞき見とか、非常ベルのことについて、非常に詳しく書いていただいておりますが、トイレの中でも防犯のライトが回るというのは、恐らく公共のトイレでは初めてだと思います。相当セーフティプログラムの視点を入れて、特に子どもや女性がトイレで犯罪に遭わないように、防犯をきっちりしています。単に男女共同参画の視点だけではなくて。

これは、もともとは内閣府の男女共同参画局というところが、大臣の提言で、トイレは3K、6Kって言われていたのですが、トイレが綺麗でしかも清潔で、特に公共トイレ、あるいは学校園のトイレが美しく清潔で安全であるということがなぜ大事かということについて、国が指標を示しています。その辺のことも、少し触れていただけたらと思います。特化しているのは性犯罪とか暴力が起こらないトイレということになっていますから、

少しだけ内容に追加していただけたらと思います。せっかく2ページもトイレにさいわいでいただいておりますので。

○餅木議長 掲載することがやはり啓発につながるし、見る視点も、このトイレが、これからのトイレのあり方のモデルですからぜひ入れていただきたいと思います。

○山口委員 私はトイレができてからゴールデンウィークの時に、トイレの入ったところにあるベンチでずっと座っていたんです。使われる方が、どんな反応かなと思って。ずっと座っていて、「これトイレやったんや、外から見てトイレと分からへんやん。」それも問題だと思いますけど。そんなにたくさんは行ったことはありませんが、海外の世界遺産であるとか、この大仙公園も仁徳天皇陵の真向かい、それからレストランの裏側にももう一つ公衆トイレがあって、よくあんな所に作ったなと思うのですけれど、あちらも綺麗にしていいただいた

んですけどね。

同じ世界遺産である姫路城は、城の白壁を塗り替えて白すぎ城と言われるくらいに綺麗なのに、入ってすぐ公衆トイレがありますが、ものすごく古くて汚れています。トイレは古いままです。だから、台なしになりかねません。白すぎ城が、みじめな城になってしまう。非常に大事なことを、堺市が上手に、国からも補助金をいただいて作ってくれました。すごく評判良かったです。トイレのなかのベンチで座っていて、「何のおばちゃんやろな」と思われた方もいたかもしれません。「いやあ」と感嘆の声をあげて入って来る方がいまして、その方に綺麗ですか、とお伺いしましたら、「こんなめっちゃくちゃ綺麗や」、と言っていたきまして、どちらの方ですかと、お伺いしましたら、羽曳野市とか藤井寺市とかだそうで、自分でアンケート調査をさせていただきました。

○事務局（田所教育次長） 海外の方はこられていましたか。

○山口委員 こられています。

○餅木議長 では、修正をよろしくお願いします。どんどん修正が入っていただいても結構です。また見せていただければと思います。

○事務局（八木課長） はい。修正させていただきます。

○餅木議長 ほか、お気づきのことがありましたら。

この修正意見の締切はいつぐらいですか。1週間ぐらいですかね。

○事務局（八木課長） そうですね。今月中には、意見集約を行いたいと思います。

○餅木議長 ということは、余り時間がないですけども、来週早々くらいには、もしご意見やお気づきのことがありましたら、事務局に連絡が入って修正をしていただくということで、よろしくお願いします。

では、案件（3）です。「今期の会議取組内容について」へ移りたいと思います。この会議でどんなことに取り組むかということで、2年間の社会教育委員会会議ですけども、今までも山口委員がおっしゃったように、単なる「はい、そうですか」という社会教育委員会会議ではなくて、何かをしていこうと、何かを変えようという意識を持って、自分たちもしようということで、活動させていただいてきましたけれども、この4年間でやってきたことの総括と共に今何をすべきなのかということも含めて継続するものは継続するし、スクラップするものはスクラップして、新しいものが需要であればそれをつけ加えられたらなどは思いますが、この辺りについて、みなさんの忌憚のないというか、ブレインストーミングみたいなものでいいと思いますので、こういう視点はどうかということ、自由に気楽に言っていただけたらと思います。どなたからでも結構ですので、今後こんなことをしたらどうかということという提案がありましたらお願いします。

○林副議長 体系的な意見ではありませんが、一つには世界遺産の登録に関して、これを広めていくということが一つの柱になっていっていいのかなと思うのと、あと、SDGsをどう推進していくかということとかですね。あと、社会がどんどん変わっていくというなかで、入管法（出入国管理及び難民認定法）の改正が大きいと思いますので、地域で外国の方とどうやって共に一緒に育っていくメンバーとして、理解を深めあっていくかという、そういう視点がまだ行政の制度的に追いついていないのであれば、本市の社会教育委員が率先してやる価値があるのかなと思ったりしています。いろんな意見があると思うので、思いつくまま話させていただきました。

○餅木議長 大きな視点から、お話をいただきましたけれども、付け加えてありましたら。浅野委員はどうでしょうか。

○浅野委員 せっかく、この実践報告集を作っていただいたということと、最初に餅木議長や山口委員からお話があったように社会教育が必要と言いながら、それならどこつながって、つながる要素なり仕組があるのかどうかと言えば、そこへ私たちが手をつっこむのか、それとも、いわゆる共同でやっていくのか、といろんなことを考えた時に、実は私の校区でも、学校教育のカリキュラムと地域がみんなで行いましょうと言っているところの意識が合致していても、行動力とかキャパシティの問題で、なかなかマッチングしないというか、ジレンマを感じるがあります。

今度、私の校区では、秋祭りに一回自分たちのまちがこんなことをしていましたよ、ということ全部パネル化して、学校から老人会全てにわたって各分野がどんなことしましたよ、というのを1回宣伝したら、みなさん方がどんな取組に、どんな関心を持ってもらえるのかなということ、ささやかですがしようとしています。

それで、私はそのような活動をしているのですが、社会教育委員として、このような地域活動を市民のみなさんへのご紹介や、他の団体へ訪問してきた立場から言えば、まちのみなさんのニーズを踏まえ、行政において「どこが担当していますよ」「どこと相談しなさい」というような、うまくガイドをしてくれるコーディネーターになるような部門探しを一度してみたらどうかと思います。ただ、社会教育委員会議の職務ではないので、そこまでするべきかどうか、とは思いますが。そういうことも手掛けられるのであれば、社会教育委員会議として関与してもいいのかなと思います。

○餅木議長 社会教育と市民を、どうつなげていくかということですね。

○浅野委員 個人の生涯学習や地域活動に、関心を持たれている方は、自分のやりたいことを実現できる場所を比較的知っています。でも、今までそのような活動にあまり関与してなくて、いざ地域のボランティアに従事したいと思う、そういう方はなかなか、どこに私は

お手伝いしたらいいのかが分からない。このごろ、子ども食堂とかでは、比較的ボランティアの方が増えてきていますが、その他の分野にも従事できる場所がありますよと、生涯学習に関してもそうですが、市民に対するアピールとか取組をできるようなことが、社会教育委員会議で何かできたらなと思います。

○餅木議長 具体的な提言がそういった市民のボランティア活動につながり、何らかの社会教育活動に参加していく中で、見えるものが欲しいということですかね。例えば、ガイドのようなものとか、そういう窓口とか。

○浅野委員 そうですね。ガイド自体を探すのに、大変力を注いでいるように感じます。先程も言いましたが、個々人が目的とする生涯学習活動はガイドをしてもらう先に目的があって、こういうところに聞けばこういうことができるという、余りにも、今の社会教育の領域が、広範囲になっていますので、行政のどこの部門でどのようなことをしているかどうかすら、なかなか市民のみなさんに浸透していないのではないかと思います。

○餅木議長 今の浅野委員のお考えで言えば、例えばというものはありますか。こういうことができるのではないかとか。

○浅野委員 他の自治体の事例で、今でもあるかは分かりませんが、市民の方が具体的なイメージもなく、やりたいことの曖昧なイメージの状態の話を行政が聞き取り、コーディネートして「こういうところで、こういうことができますよ」とコーディネートする「すぐやる課」というのが、あったと思います。社会教育委員会議として、行政に干渉してよいのか分かりませんが、そのようなイメージを相談できるような部門があれば良いなという意識で話させていただきました。

○林副議長 縦割りにならないようなかたちで。

○浅野委員 現状の行政が、縦割りになっていて、つながろうとか広がろうとか社会教育委員会議で提言していますが、どこかが社会教育の仕組みづくりを指導するというか、軸になることが大事だと思います。非常に抽象的かとは思いますが。

○林副議長 学校とかで、そういう週に1回とか何か集まれるような場とかがあって、困ることがあれば、「それだったらこっち行ったらいいんじゃないか」とかそういうつないでくれるような機会があればそういうのもいいかなとは思いますが。

公民館とかが小学校とか中学校区に一つあれば、そういう公民館をね。

○浅野委員 そうですね。全校区にあれば、堺市全体で見たら、例えば男女共同参画センターの堺自由の泉大学は、去年か一昨年か、私の校区の役員が参加してきまして、内容を聞いてみましたら、「堺自由の泉大学にはさまざまな内容があって、男女共同参画運動以外にも取り組まれている」ということで。そのような内容を何らかのヒントとして、これはもう個々の

ご紹介となりましたが。なかなか上手く説明ができないのですが、さまざまな分野に手を出してしまいますと、後ろにいらっしゃる事務局に負担が掛かる懸念がありますし、無理は言えませんが。議論をするなかで、そのような雰囲気が醸成できるなら、例えば全部が難しいなら、モデルを作ってみるとかいろんなことも含めて、具体的に学校、地域、家庭を社会教育に関係して、議論できるような、例えば今お話したモデルでもいいし、こんなところがありますよってご紹介できるようなことにつながれば良いと思います。

○林副議長 子ども食堂などがモデルとなって、例えばそこをきっかけに、社会教育資源同士をつないでもらうとか。「それで困ってるんやったら、こっち行ったらいい」とかそういう事例を取材か何かさせていただいて、社会教育のモデルとして推奨していくということはどうでしょうか。

○山口委員 堺自由の泉大学は、今は女性団体の手は離れておりまして、現在は別の法人である会社が、プロポーザルで受託していますので、私はもう関与はできません。そのように同じ生涯学習が続いていても、発展して変化しているというところはありません。ただ、今これから何かをするかということで、例えば社会教育の担い手は誰かと問われたときに、誰って答えたらいいのか。当然ここにいる社会教育の委員のみなさんは学識経験者と、社会教育法で定められている社会教育団体の方が参加されていますが、まず社会教育団体であるという認識を自覚されている団体というのも少ないと思います。それと、社会教育と学校教育とのつながりでいくと、堺市は各学校に学校運営協議会というものがありますが、社会教育委員会会議は全然つながっていないです。それから、区教育健全育成会議というものも作られましたけれども、この取組にはいろんな地域の方々や専門家が参画されていて各区で取組まれています。毎年1年間でまとめられるレポートを見ていると、本来の目的であった、学校が大変だと、いじめや不登校、モンスターペアレントの問題とか、不適切教員がいるとか、いろいろ問題や課題を抱えているなかで、それを学校のなかだけで解決できないから地域の方々や専門家の力を借りてしっかり子どもたちを育てていきましょう。自分たちも育ちあっていきましょうという目的が達成されているかという視点でレポートを見ると、全然そうになっていないです。そうになっていないということになると、目的に全然近づかずに市職員さんの仕事が増えているだけ。レポート作るためにやっているようなものではないでしょうか。社会教育委員のみなさん、この会議は違いますよね。まず、担い手の問題というのは当然社会教育団体とか、社会教育委員会会議、あるいは教育委員会事務局が根幹にあるわけですけども、この人が担い手ですと決めてしまったら、もうそこで社会教育の広がりが見えていかないし、負担が大変になるだけだと思います。だから、その担い手であるというのはみなさんがそういう認識なり自覚を持っていただけるような機会を私たちがどのようにしたらいいのかを考

えていくことはできる。しかし、押しつけてはいけないと思います。

それから、社会教育のこれからについては、今回の実践報告集の「はじめに」を餅木議長が書かれて、「おわりに」を林副議長が書かれているんですけど、これが素晴らしいなと思いました。

提案ですけど、私はそろそろじっくりと専門家の話を聞きたいと思います。餅木議長やもちろん黒田委員も、船橋委員もおられますけれども、学術的に社会教育は実はこうなんですけれど、堺市はこうですよ、素晴らしいですよという話だと思いますね。

少し話が拡散していますけど、「つながりつながり」って言われますけど、つながり方というのはいっぱいあって、方法もいっぱいあって、誰かどう手をつないで一緒に何かをする「つながり」、あるいは私こんなことやっていますけど一人で生きているんじゃないなど、いろんな人に助けてもらえて実は見守られて生きているんだなと感ずることができること、そういう「つながり」です。目に見えないつながり、そういうものもあります。それから、考えないといけないことは、結論は林副議長がこの実践報告集の最後に書いていただいています。この結論みたいなものって決して結論ではないです。結論ではないけど、こういうことなんですよっていうことを優しく教えていただいている。これをどううまく広げていくかっていうことだと思います。

今回、新しく黒田委員に入っていただいて海洋研究ということを知ったので、タイミングがすごくいいなと思いました。私は女性団体以外にも消費者団体にも関与させていただいてまして、プラスチックのストローですとか、ペットボトル類を使わない、そうやってごみを減らしていくというような環境の運動もしています。きっかけとしては、そういう堺市の新しい取組、SDGsもそうですけど、もちろん世界遺産も大事ですけど、わかりやすいですよ。ペットボトルをもうやめようよって言ったらみなさん、自宅で麦茶を炊くようになるかなって感じで、最近では粉末タイプのものも出ていますし、簡単にお茶は作れますけど、男女共同参画センターでは近くの小学生がキャリア教育で6年生が毎年来るのですが、自宅に急須がないから、紅茶の淹れ方がわからない、日本茶の淹れ方もわからない。常に冷蔵庫にペットボトルがある。そういう子どもが半分ぐらいいます。そのような状況で、この問題についてどう考えていくか。

例えば、「ペットボトルやストローなどのプラスチックの使用はやめよう」とかこれは大変なことですよ。行政や事業者や市民も実践するということになってくるので、一つのきっかけとしてそのような内容でワールドカフェをやってみてもいいなど。あるいはシンポジウムを行って、固い話ではなくて餅木議長や林副議長を主体に、何かみなさんととりあえず話を、とりあえずと言うと失礼ですけど。新しくフェニーチェ堺もできたことだし、社会

教育研究大会全国大会とか行ったら実践しているじゃないですか。三重県での開催時でしたら、三重県内のいろんな社会教育団体や事業者が体育館のフロアで模擬店を出店していました。浅野委員がおしゃっていたような自分たちの活動を紹介する模擬店を出店しています。あのようなものが堺市であってもいいかなと思います。ただ、フェニーチェ堺を借りるとか言ったら事務局はどきっとされるかと思いますが。

堺市は案外、財政も余りよろしくないです。人口減がひどくて、今年の8月1日でいよいよ82万人台になります。82万8,555人、年間1万人くらい減っているんです。もう84万人都市じゃないです。そういう状況のなかで高齢化社会になってきて、地域の包括ケアだとか、子どもの居場所がないとか、いろんな大きな課題があつてどこに焦点を当てていくか。社会教育委員会議会でまずできることをきちっと話し合つて何か一つでもやれたらいいなど。

私はプラスチックの問題と深く教育に関わつていまして、今一番深刻だなと思つていまして、二つありまして、一つは堺市全体で学校に不登校の子どもたちが700人近くいる。これがなかなか問題が解決しない。私自身は無理やり学校に行くだけが道ではないと思つています。大変な思いをしてまで行く必要もないと思つますけれども、じゃあそのフォローができていって言う、フォローもできていません。そのようななかで子どもたちが小学校、中学校の義務教育期間に不登校になるというのはやはり生きる力をつけていくことに支障が生じ、それで基礎的な学力も体力もなかなかつけにくい。

○船橋委員 本校も残念ながら不登校の生徒を何名か抱えていますので。今、AIとかいう時代の中で、人間として必要な知識、資質を持って中学校を送り出したいということで、そのなかで本校が力を入れているのは、ICTのパイロット校ということで、ICTに特化するのではなくて、人間らしいコミュニケーション能力とか、人間らしい力を育てようということで頑張っています。

○山口委員 不登校の原因は何なのか、はっきりさせないといけないと思つます。国へは報告していますが、不登校の子ども数字を、実態を、はっきり市民に見せていただかないとおかしいでしょう。

○事務局（泉森部長） 堺区では不登校の子どもの居場所づくりとか、無理やり学校に連れていくというのは良し悪しがあり、なんとか別の場所で生活できる力、生きる力をつけようということで、議論をさせていただきました。

○山口委員 議論どまりですね。

○餅木議長 大変深刻な話ですし、だけど、子どもの人生を考えたときにやはりその人の人生に関わることがあるということ、我々は分かつていれないといけませんし、不登校の問題というのは学校に行けないのか行かないのかというようなところから、きちんと検証してい

くアセスメントしていかないといけない問題であり、本当に深刻な問題だと、居場所をちょっと作ったらいいやというような問題ではなく、学校として考えて、あと地域として考えないといけないと思います。

○浅野委員 今、山口委員が仰っていましたが、学校運営協議会に私も参加していますけども、学校の先生方の任期は長くて3年から4年で、自治会など地域の活動している者は6年から10年程度です。先ほどのコーディネーターという訳ではありませんが、地域の子どもの小さい時からずっと見てきています。学校に入ってから不登校の原因が発生したのかどうか、学校の先生は分からずに対応することになるので、私の校区では民生委員や学校との協議など、いろんなことをしてもらいながら、少しでも学校が子どものことで相談できる、顔を合わせるような機会を作る場所を設けています。けれども、なかなか学校の先生が地域を信頼して話ができないから問題の解決に協力していただける方が地域にいるにも関わらず、活用できていないのが現状です。そのような現状なので、学校は学校で、地域は地域でと進めていますから、たまたま学校運営協議会という名前のもとで、学校と地域の両サイドが会って何かないですかという機会があっても、年間の学校の評価をしてみるだけで、こんな事業に取り組むのはどうですかというだけの形式的なものに終わってしまっているのが現状です。おっしゃるとおり、目的や手段を持って、うまく運営している学校は別ですが、そうでない学校はただ年に数回会議を行っているだけです。

だから、本当に不登校を解決するのに、ちょっとしたことでも相談することができたら解決する事案というの、全てではないけど、あるのではないかと思います。

○餅木議長 本当にそこに関われる、その問題を解決できる資源が地域にあるのにも関わらず、学校との関係でなかなか今「つながり」が持てないために、その方の出番が作れないことが多々あるということですね。

○浅野委員 学校にくるあのおじさんに相談してみよう。「あのおじさん、いつも相談に乗ってくれるぞ」、というような方がどこかにいるんですけどもね。

○餅木議長 そういうところを掘り起こしていくにはどうしたらいいのかということで、本当は今日からやらなくてはいけないこともあるかもしれないし。

○浅野委員 もう一つだけ言わせていただいたら、山口委員が、ペットボトルの話で良いことを仰っていただきました。私も会議をするのに、以前は公民館で管理人の方が事務員にお茶を一つ一つ淹れて貰っていました。淹れていただいたらあとで片づけをしないといけないし、片づけをするためだけに事務員にそんな時間までいてもらってはおかしいということで、缶やペットボトルに変えてきた経緯がありました。でも今、環境の問題もあって、ペットボトルからもう一回原点に戻れという話、急須に戻れという話をしてあげないと、環境問題だけ

ではなく、もう一回急須やお茶の文化を再発見することも大事だと思います。

○山口委員 専門家がお隣にいらっしゃいます。大阪湾はごみが捨てられないでしょう。

○黒田委員 海って人々の生活とかに身近なはずですけども、特に大阪湾はずっと埋め立てなんです。泉佐野くらいまでずっと埋め立てなので、アンケート調査などでも大阪湾はすごく汚いというイメージが断トツで多いです。だけど、海からの恵みは魚も含めて埋め立て処分地も含めてなんですけれども、海と私たちの生活はすごく身近にあります。

堺は、特に中世の時代からある港都市で、外との窓口であったはずですけども、私たちの便利な生活と引きかえに海の豊かさを削って、経済的に豊かになってきた歴史があると思います。この場合、環境問題としてのプラスチックがきっかけだったとは思いますが、そのきっかけに私たちのライフスタイルがどう海とつながりがあって、それがどう影響しているのかというのを振り返るいいチャンスだと思います。

特に堺市はSDGs未来都市ですが、14番の「海の豊かさを守ろう」が実は欠けていまして、この会議室の壁に貼りだしているSDGsの旗に14番を加えたいなとずっと見ながら思っていました。堺は漁業もやられていますし、海って本当に教育の場でも非常におもしろい場というか、私は阪南市でボランティアとしてイベントを行っているんですが、そこで海と陸とはつながりがあるので、6月に田んぼで田植えをして、夏に漁業体験をして、秋には稲刈りをして、最後、冬にノリの養殖が阪南市でありまして、それを1年間、子どもたちと保護者と一緒にイベントを行っていきます。そうすると、初め「大阪湾は汚いな」と言っていた子どもが、すごく海が身近になっています。このイベントの本当の目的は子どものためだけではなくて、こられる子どもたちの保護者の方々に、もっと魚とか大阪湾を身近に子どもたちを通して一緒に知っていただくようなイベントになっていまして、そういうことを堺市でできれば、それこそ社会教育の先駆的な例になると思います。阪南市では、今年で6年目になりまして、阪南市外では行い難いのかなと思っていましたが、堺市の数10キロ南ではそういう事例もありますので、堺市でも実現できたらと思います。

○餅木議長 いいですね。堺市にとってもそれは良いアイデアだと思います。そういう社会で拓かれていかなくてはいけないし、子どもたちにとって、未来の問題というか、それを考える準備をしなくてはならない。

○山口委員 黒田委員は海に潜られますか。

○黒田委員 遊びではやっていましたのですが、最近は余り泳ぎが得意ではなくて。

○山口委員 みんなで潜らせてもらいましょう。

○浅野委員 私の校区では、去年からいろいろな池の水をかつさらってということだけでなく、川に生息している生物を探そうという取組を行ったのですが、川でしたら水深が浅いから取

り組みやすいですけれども、海と言え、それこそ安全管理をしっかりしてやらないと危険というイメージがどうしても先行してしまうので、取り掛かりにくいのです。

○山口委員 また、浜寺を泳げるようにしないといけません。

○浅野委員 昔は泳いでいたんですけどね。

○山口委員 昔は高級リゾート地だったんですよ。

○黒田委員 阪南市はコミュニティでそういうイベントを支えています。先ほど浅野委員がおっしゃっていた「このおっちゃんに聞いたらわかる」というのも、小さな港ですけれども、常にボーッとしているようなおじさんとかがいらっちゃって、子どもと仲良くしゃべったりされています。そのような風景が一部の地域ですけれども自然にありますので、そういうコミュニティと教育とがうまく回っているような事例があります。

○浅野委員 話が飛びますが、この25日の視察で乗船する船は、漁船ですか。

○事務局（泉森部長） 漁連の人が持っている船なので、漁船になります。

○浅野委員 何で申し上げたかという、何年か前に、浜寺の臨海工業地帯の夜景を見るのに、漁連の漁業長に「ちょっと船を出せないのか。まちづくりの予算を確保するので何かイベントをしようよ。」とお願いしました。でも、なかなか人を乗せてするのは危ないし許可が出ないということで、企画として成立しませんでした。浜寺運河を歩いて見るのではなくて、船を走らせて、工業地帯を海から見るのができたら良いと思ったのですが、頓挫したんです。

○事務局（泉森部長） 今やっているのは出島漁港の港まつり、10月の終わりですかね。一般の方に乗ってもらって。海上保安庁ですね。試乗ができるようなものはありますが。

○浅野委員 安全性はどうかということで、漁連だと難しいと言われてしまって。

○事務局（田所教育次長） 恐らく漁船だったからだめかと。渡船であれば、タクシーみたいなものなので、ひょっとしたらそこが違うかもわかりません。

○山口委員 釣り大会などはシマノもありますね。浜寺運河でイベントをするのはどうですか。このごろの子どもは、本当にゲームばかりやって、暴力的なゲームが多いです。今はやっているゲームがありますけど、ひどいです、画像が。一々機関銃を撃つたびに画面に返り血が返ってきて、私は自分の子どもたちが必死でやっていたのをとめました。そのようなものを毎日していたらおかしくなるよと言って。逆に釣りとかする機会がないから、生き物である魚を釣って、暫くしたら魚は死ぬんだということを、このごろは実体験できていない子どもが多いですよ。必ずしも家に急須がなくてもいいけれども、お茶の文化を推している堺市で、やっぱりできることが。そういうときに、何かイベントを行うときにいろいろなところとコラボしてやったらいいと思います。

○浅野委員 今、山口委員がご提案したところを、単にペットボトルというだけではなくて、さっきの急須の話だとか、黒田委員のところの海洋の話だとか、諸々を結びつけていけば、違う意味での社会教育というのか、それだけではないですけども、そういう捉え方というのが私はいいのかなという気はしますけれども。いわゆる教育、こちらが直に実践するのではないけれども、実践するような環境などを提案したり、どこかを紹介したりというようなところで。

○餅木議長 それは、ツールとしては、ホームページなどでできるかなと思います。今のお話なども含めて、学校と地域の話、小山委員、何か思っていることとかございますか。

○小山委員 学校と地域とはちょっと違うかも知れませんが、実は社会教育って何ですかと聞かれたときに、昔ながらの図書館や箱物施設を作って、そこへ行く、そういうものぐらいの認識しかなかったものですので、この実践報告集を読ませていただきまして、今はまだ「こんなことがあるんだ」というぐらいの知識です。本当に申し訳ないですけども、今、「つながり」を大事になさっているということで、そう理解して読ませていただきました。この「つながり」をどのようにつなげるのか。それをこの場でやるのか。それとも「つながり」は発信するだけで、見る人がこんなんやっているんだ、こういうのを堺市でやっているんだということを知るだけでいいのか、そのあたりがわからないというような気がしました。今お聞かせていただいて、この実践報告集はインターネットで資料が出るだけなのでしょうか。

○事務局（八木課長） 公共施設、社会教育施設等に配布を予定しています。

○小山委員 そうですか。私は今まで本当に一般市民ですので、こういうことを今まで堺市がやっておられるということ、自分でも活動していました。自分の活動が、堺市の一員としてつながっていたんだという認識くらいです。今、「つながり」を大事にしていることが社会教育なんだなということ、この実践報告集を読ませていただいて分かったんです。

じゃあ、どのようにして先程のお話につなげていったらいいんだろうかということです。莫大な難しい問題で、一体私の頭では分からなかったのですが、お話を聞かせていただいて、やっぱり今は世界遺産のこと、堺市が今どうするべきか、市民としてどう広げていくことかだとか、あるいは環境でペットボトルのお話を聞いて、堺市がやっていることに、市民がやっぱり、全体の市民が盛り上がらないと、こっちで何かをやっている、あっちで何かをやっているというのをつなげるということも、発信だけでいいのかどうか、私はどうしたらいいのだろうかということです。でもやっぱり何かをしていかななくてはいけないということで、今話を聞かせていただいたなかで、ペットボトル、環境のこと、あるいはこれは堺市民がみんなやっていかななくては、日本が全部やっていかななくてはいけないこと、世界中がやって

いかなくてもいけないことをやっばり私たちは広げていかなくてもいけないということ。浅野委員や、山口委員も述べられましたが、若者がそうだっていうことを実感してもらうことが、シニアも大事ですが、若者の力というのはものすごく大事だと思います。だからそういう発信を、実践報告集を見させていただいたら高校生だとか中学生だとかがそのことについて堺市中のみんなが考える場を作る。みんながそこでつながって、子どもたちがやっていたらこういうことをやっているんだなということを大人たちも知る、そしていろいろな団体もそこに参加するというつながりを作っていくかなんていけないのでは。

だから、どうしたらみんながつながっていくか。堺市中の子ども、社会教育関係団体、保護者、それぞれが「つながる」ことを一点突破でも何でもいいから一つ何かやれること、それがSDGsということにもつながる。全ての世界が今求めているものを、私たちはやっているんだという自覚をそれぞれができるような何か一つを投げかけることが大事かなと思います。そのことが結局は一つだけではなくて、大阪の海を綺麗にすることにもつながるだとか、こういうこともやっているんだということを伝える。参加してくれた若者たちもここへ行く。実は私は南区に住んでいるので、こういうことを毎年実施されていることを全然知りませんでした。だからやっばり経験させる、若者たちが知る、それは大事なのではないかと思います。

- 餅木議長 堺にはいろいろな社会教育関係団体があつていろいろなことをしますが、それらはばらばらではないし、どこかで「つながり」を持たそうということを我々は意図しながら、みなさんの実践していることはものすごく社会教育として意義あることですよということを伝えようということで、今具体的に動いているということがありますので、仰っているとおり、我々が今まで議論してきたことをわかっていただいたという気がします。
- 小山委員 この実践報告集にも更生保護女性会の取組を載せていただいて、この更生保護女性会のみなさんが一人一人こういう活動をしているという自覚を持ってやっていますが、堺市のなかで取り上げてくれているよということは実は知りませんでした。だから、また今度更生保護女性会に帰ってそれが社会教育の一環で、そういう意味でも私たちの活動が認められているというか、一助になっているということを伝えないといけないと思いながらこれを。
- 餅木議長 一歩ずつだと思いますけれどもね。それはどういう方向というか、それぞれのSDGsという大きな目標があつて、具体的なところから取りかかるというのは、先程のお話を伺っていると、環境問題という窓口が一つのきっかけから、ペットボトルではなくて水筒が、そういう本当に具体的な動きのなかで自分がしていることの意味ということを経験してみんなが考えるというのも一つのきっかけかなということでお話いただいた。船橋委員、よろしければ、学校教育と社会教育のお話とか。

○船橋委員 反省をこめて、各小中学校というのはさまざまな取組をしていますけれども、やっぱり発信の仕方が下手という部分があると思います。本校でもことしもLGBTとか性暴力について生徒に対しての勉強会をしますけれども、広げる範囲が現状では保護者までです。

今日のお話を伺っていて、やっぱり地域の、今度中学校でこんな勉強をしますから地域の方々もどうですか、参加してみたらどうですかというような発信をしていくことが大事かなと思っていますし、私が所属している、津久野中学校だけではなくて堺市の各小学校、中学校でもさまざまな取組をしていますが、結構遠慮ぎみに、自分の学校はこんなことをやっているんだというPRを各校長はしていないんだと思っています。私は厚かましく、結構津久野中学のPR、いろいろな場所でさせていただきますけれども。それでも今日、山口委員からも聞いた本校でそういう生徒にやっている取組について保護者までだなということで、認知症の学習会については地域と一緒にやっているんですけども、地域と一緒に中学生、教員、保護者が一緒に勉強するという機会を設けるには、声を掛けるだけでいいので、学校としてはそう負担ではないので、よかったらきてくださいという形で、学校がもっと発信すれば、今餅木議長も仰いましたが、社会に開かれた教育課程ということも新しい学習指導要領に出ています。そういうことを反省と、すぐに今日の社会教育委員会議の後から取り組ませていただこうかなということで、また中学校の校長会等でもいろいろな学校の良い取組を、地域の方々に参加してもらえるようにPRしたらどうですかというのを中学校の校長会で話をして、小学校の校長会の会長にも中学校の会長と私のほうからそういう話もしていったら、みなさんに多くの情報が集まれば、少しでも学校教育がいろいろなところとつながれるかなと思います。頑張ります。

○餅木議長 ありがとうございます。働き方改革で、地域の人が出るというのは、とても言いにくい中ですが。

○船橋委員 私の中学校では、いじめ、不登校、虐待の対策委員会を毎月1回やっているんですけども、保護司、民生委員、人権擁護委員、全て参加します。もう地域から情報をもらわないと解決、学校だけで抱えていたら子どもにとって不幸せだから、地域の力を借りて解決していこうという取組もしています。

○餅木議長 そういうこともお互いに知って、地域も知っていかなければと思います。

とりあえず、今日お話いただいたことをどうつながるかということも整理しなくてはいけないので、それについては私のほうに一旦預らせていただいて、またこの方向性でということについて提案をさせていただきたいと思います。それでよろしいでしょうか。

では、いままでの議論を今後の活動のベースにということにしたいと思います。

事務局からご連絡ありましたらよろしく願いいたします。

○事務局（八木課長） 失礼します。3点ご案内がございます。

まず、お手元にお配りさせていただいております第 61 回の全国社会教育研究大会兵庫大会の資料ですけれども、10月23日から25日までの3日間、神戸ポートピアホテル・ポートピアホールで開催されます。初日が理事会になりますので、2日目は全体会、3日目の分科会に事務局より出席を予定しておりますので、委員のみなさままでご出席を希望される方がおられましたら出席していただくことができますので、事務局まで申し出ていただければと思います。10月24日、または25日になりますが、よろしく願いいたします。またご案内させていただきます。

2点目ですが、私が7月の4日、5日に名古屋市で開催された指定都市社会教育主管課長会議、全国社会教育委員連絡協議会に参加させていただきました。そちらの報告になります。そのなかで、協議題としてみなさまに配布させていただいている資料がありますが、各政令指定都市それぞれの、何が聞きたいということを課題として協議題として挙げていただいて、その協議を行うという形で進めるものでございます。このなかで、各資料で協議題と記載してある分を、初日、2日目と協議させていただきました。それぞれ資料もございますので、各政令指定都市がどういうことをこの協議題に対して回答しているかという資料もございますので、みなさん、もしご所望であればコピーをしてお渡しすることも可能ですので、どうぞよろしくお願いいたします。このなかで、堺市の提言書について相模原市より説明をいただきたいとご意見をお伺いいたしましたので、私より説明させていただきました。

また、この会議のなかで、名古屋市の市庁舎であるとか、名古屋城の本丸も見学させていただきました。本丸は150億円をかけて去年改装されたということで、次は天守閣ということだそうです。また、会議の合間に「アトラボあいち」というところに行かせていただきまして、非常に歴史ある古い建物でしたけれども、1階が戦争記念館、2階が今話題になっています、あいちトリエンナーレの事務局がありまして、そのパンフレットももらってきておりますので、本日、回覧させていただいています。また、「ウィルあいち」という愛知県の女性総合センターを訪問させていただき、ご挨拶させていただきました。いろいろな施設を回れる機会がございましたので、非常に勉強させていただきました。以上で報告を終わらせていただきます。

もう1点ですが、今度ワクワク海験（たいけん）につきまして、会議資料で8月25日のチラシを渡させていただいております。既に個別にご案内させていただいておりますが、会場まで公用車にご乗車される場合は、当日午前9時20分にこの市役所の1階の平面駐車場にお越しください。自家用車等でお越しになる場合はヒラメの稚魚の放流がありますので、ヒラメの稚魚の放流をごらんになりたい方は9時50分までに会場に、そうでない場合は11

時 30 分に直接会場までお越しく下さい。イベント主催者の方への挨拶の後、大阪湾のクルージングということになっております。今回の視察のテーマとしましては、海との「つながり」から見た堺ということで、自治会や堺市漁業協同組合連合会とのコラボレーションイベントを見ていただきたいと思いますと思っております。

また、本日、社会教育委員のバッチと「社会教育委員のためのQ&A」という冊子をお配りしておりますので、今後の活動等で活用していただきたいと思いますと思っております。

報告は以上でございます。

○餅木議長 ありがとうございます。この報告の案件について、またご質問等ありましたら事務局によりしくお願いいたします。

これで案件は全て終了ですが、今後の日程等について、何か事務局からございますか。

○事務局（八木課長） 会議は、例年ですと来年2月頃の予定になりますので、その日程調整は改めて事務局を通じてさせていただきたいと思えます。

○餅木議長 会議は2月ころの予定ですね。

○事務局（八木課長） 視察等のご案内がございましたら、事務局よりご連絡させていただきたいと思えます。

○餅木議長 よろしくお願いいたします。

会議について、今日、いろいろなご意見が出たものについて、またまとめさせていただきたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

社会教育委員会会議について、ここで閉会したいと思います。

ありがとうございました。

（午前 11時04分 閉会）